２０２３年１０月１５日　礼拝説教要旨
ハイデルベルク信仰問答講解説教Ⅱ１９「終末を待ち望む」
詩編１１０：１～7、ルカ２１：２５～２８

問５０なぜ「神の右に座したまえり」と付け加えるのですか。
答　　なぜなら、キリストが天に昇られたのは、そこにおいて御自身がキリスト教会の頭であることをお示しになるためであり、この方によって御父は万物を統治なさるからです。
聖書では、教会のことを「キリストの体」と表現いたします。教会の頭はイエスさまであり、わたしたちは洗礼を受けて頭であるイエスさまに結ばれ、その生きた肢としてイエスさまにつながっています。問４９に「わたしたちがその肉体を天において持っている」という印象深い言葉がありました。イエスさまは、わたしたちの体を伴って天に昇られました。ですからイエスさまにつながっているわたしたちは、現在、地上を生きていますが、教会を通して、天、神さまのご支配を生きています。

洗礼を受けてキリスト者として生きることは、自分一人の問題ではありません。何よりわたしたちがイエスさまのご支配をこの地上に現すものとして存在している自覚が求められています。
問５１わたしたちの頭であるキリストのこの栄光は、わたしたちにどのような益をもたらしますか。
答　　第一に、この方が御自身の聖霊を通して、御自身の部分であるわたしたちのうちに天からの諸々の賜物を注ぎ込んでくださる、ということ。そうして次に、わたしたちをその御力によってすべての敵から守り支えてくださる、ということです。
「天からの諸々の賜物」とは何を示しているのでしょう。以前、信仰問答でイエスさまの務めである預言者・祭司・王（問３１～３２）について取り上げたときに、信仰者もまたこの三つの務めを託されていることを学びました。洗礼を受けてイエスさまに結ばれているわたしたちは、イエスさまの体の一部となって、この三つの務めを生きています。預言者として、御言葉を宣べ伝えること、それは伝道の御業と理解してよいでしょう。また祭司としての執り成し、隣人を神さまに導くこと。そして王として、自由な良心をもって罪と戦うこと。この世に同調するのではなく、毅然と罪に抗い立ち向かうことです。そのようにしてイエスさまのご支配を現すのです。天に昇られたイエスさまにつながっているからこそ、わたしたちは地上にありながらも、頭であるイエスさまの御心を現して歩み続けることができるのです。もう少し具体的に考えてみましょう。

先日開催された九州連合長老会の信徒修養会で蕃山町教会の服部修牧師に全国連合長老会の新しい式文についてお話をしていただきました。式文についてのお話ですから、教会員には直接関係ないと思われるかもしれませんが、式文は主の日の礼拝から葬儀、結婚式まで様々な面で使用します。ですからわたしたちの生活に密接に関わっているものです。講師の先生は、式文が信仰の営みに世俗を入り込ませないようにするためのものだと強調されました。例えば、葬儀や結婚式では、世俗化との戦いが常にあります。結婚は、籍を入れれば自然に夫婦となることではありません。神さまの御前に夫婦となる約束をすることが重要です。それによって結婚は祝福され信仰の事柄になります。葬儀では、故人のことを中心に語ることが多くなり、それが「死者礼賛」につながります。しかしそのような死が支配する場所でこそ、よみがえりの御言葉が語られる必要があります。幼児祝福も七五三ではありませんし、家を建てる起工式も地鎮祭ではありません。それらをこの世の事柄にするのではなく信仰の事柄にする。またそのた

めに教会は戦っています。そのようにしてこの地上にイエスさまのご支配を現すのです。

そしてそのようにイエスさまに結ばれ、そのご支配を現しながら生きることが、やがて終末を迎えるわたしたちの備えになることを信仰問答は語ります。

問５２「生ける者と死ねる者とを審」かれるためのキリストの再臨は、あなたをどのように慰めるのですか。

答　わたしがあらゆる悲しみや迫害の中でも頭を上げて、かつてわたしのために神の裁きに自らを差し出し、すべての呪いをわたしから取り去ってくださった、まさにその裁き主が天から来られることを待ち望むように、です。この方は、御自分とわたしの敵をことごとく永遠の刑罰に投げ込まれる一方、わたしを、すべての選ばれた者たちと共にその御許へ、すなわち天の喜びと栄光の中へと迎え入れてくださるのです。

ここでは終末について語られます。終末とは、やがて訪れる世の終わりのことですが、その時にイエスさまが再び来られる「再臨」と「最後の審判」のことが聖書には記されています。信仰問答は「あなたをどのように慰めるのですか」と問います。すでに慰めが前提なのです。イエスさまに結ばれているわたしたちにとって終末は慰め以外の何ものでもありません。どうしてでしょう。それはイエスさまがわたしたちを裁くために来られるのではなく、むしろ「天の喜びと栄光の中へ迎え入れてくださる」ために来られるからです。そのためにイエスさま自らが裁かれてくださいました。「神の裁きに自らを差し出し、すべての呪いをわたしから取り去ってくださった」とあります。イエスさまが十字架で死んでくださり、神さまの裁きをすべて引き受けてくださいました。ルカ福音書には「そのとき、人の子が大いなる力と栄光を帯びて雲に乗って来るのを、人々は見る。このようなことが起こり始めたら、身を起こして頭を上げなさい。あなたがたの解放の時が近いからだ」（ルカ２１：２７～２８）とあります。「解放の時」原文では「贖いの時」です。わたしたちはイエスさまによって罪を贖われ、すでに神さまの裁きから解放されています。だからこそ「頭を上げて」終末を待ち望むわたしたちの生き方が可能になるのです。

世の中を見ればうつむくことが多くなります。戦争、社会不安、環境問題等々。個々の歩みにおいても病を得て、年老いて、様々な問題を抱えて、それこそうつむきながら生きていかざるを得ない現実があります。しかし神さまはわたしたちに天を備えてくださっています。いや、もうすでにわたしたちはイエスさまによって天につながっているのです。頭であるイエスさまがその体に結ばれているわたしたちをやがて天の完全な喜びと栄光の中に迎え入れてくださいます。その日を共に待ち望みましょう。

天の父よ。下を向いてうつむいてしまうことばかりです。しかし、わたしたちの体はイエスさまに結ばれ、天に届いています。やがてすべてが天の喜び、栄光の中に迎え入れられることを信じ、希望を持って、どうぞそれにふさわしく生きることができますように。主の御名によって祈ります。アーメン。